

がん高齢患者と意思決定支援に向けた話し合いを行うための 訪問看護師による介入方法

No. 1005



研究背景①

〈社会状況〉

- ・ 平均在院日数は短い傾向(厚生労働省,2017)
- ・ 在宅医療を受ける患者は大幅に増加(厚生労働省,2016)
- ・ 一人暮らしの65歳以上人口は増加傾向(内閣府,2017)
- ・ 夫婦のみの高齢者世帯は増加傾向(厚生労働省,2017)

〈高齢者の疾病の特徴〉

- ・ 病状や経過が典型的でない
- ・ 病状が急変しやすい
- ・ 意識障害やせん妄を起こしやすい(北川,2017)
- ・ 死因で最も高いがんの終末期では、緩やかに衰弱し、ある時を境に急速に衰弱する(齊木,2018)

今後在宅で生活するがん高齢患者が増加することが予想される

望みや意思を大切に
する看護を行うには

**相手が伝えたいことや話したいことに対して
丁寧理解を深める姿勢が必要**

研究背景②

在宅看護では

「療養者・家族の意思決定」を支援することが重要な看護ケア
(臺、石田、山下,2019)

アドバンス・ケア・プランニング (Advance Care Planning : ACP)

人生の最終段階における医療・ケアについて、本人が家族等や医療・ケアチームと事前に繰り返し話し合うプロセス。そのプロセスを共有することで、本人が自らの意思を伝えられない状態になった場合に、本人の意思を尊重した医療・ケアの方針の決定に繋がる(厚生労働省,2018)。



在宅で生活をする患者にとって、
訪問看護師の存在は大きいのではないかと考えた。

研究目的

訪問看護師がどのように介入を進めれば、
がん高齢患者と意思決定に向けた話し合い
を行うことができるのかを明らかにする

研究方法

〈調査方法〉

文献検討

〈調査対象〉

医学中央雑誌のWeb版を使用し、「意思決定」「腫瘍」「高齢者」「訪問看護」のキーワードを用いて、会議録を除いた文献のうち、訪問看護師から患者への介入が記載されている事例がある文献を対象とする。

〈分析方法〉

文献の全文を精読し、①意思決定をすることに対して高齢患者がどのように考えているのか、②高齢患者の状況に合わせて、訪問看護師がどのような対応を行っているのかを抽出し、分析する。

〈倫理的配慮〉

医学中央雑誌のWeb版において検索可能なすでに出版されている文献を対象とし、分析するにあたり著作権を侵害しないよう出典を明記する。

結果①

医学中央雑誌のWeb版を使用し、「意思決定」「腫瘍」「高齢者」「訪問看護」のキーワードより、会議録を除いた文献は31件。そのうち、訪問看護師から患者への介入が記載されている2つの文献を対象とした。

〈事例概要〉

1) 地域における高齢者のエンド・オブ・ライフケアの実践に向けて 在宅での高齢者のエンド・オブ・ライフケアを支える

A氏(80代女性、肺がん)：80代の夫と二人暮らし。医師から自宅での療養相談と緊急時の対応をサポートする訪問看護を紹介され利用開始。31日後、大好きな蘭の花に囲まれて、家族に看取られた(安藤,2019)。

2) 病院と地域とのがん看護連携～ケアをつなぐ看護の役割～ 外来化学療法を継続しながら、生活者としてのケアをつないだ事例

B氏(70代女性、肺がん)：70代の夫と二人暮らし。日常的な病状管理、経過観察目的で訪問看護を導入。当初はホスピスへ入院したいと訴えていたが、訪問看護利用が進むにつれ、在宅療養の意向を示した。その後、B氏はトイレ歩行が困難になり夫の不安が増強したため、B氏と夫は入院を希望し緩和ケア病棟へ入院となった(田代,2015)。

結果②

カテゴリー	サブカテゴリー
訪問看護師によるタイミングの調整	訪問看護師は、患者の症状や生活状況からタイミングを図った
	訪問看護師は、患者と家族の生活リズムに配慮した
変化する患者の意思を尊重した看護	訪問看護師は、患者の意思に着目した
	患者の意思は、変化し続けた
	患者は、望む最期を迎えた
療養生活のサポート	訪問看護師は、患者の食べることについてサポートした
	訪問看護師は、患者の気分転換を提案した
家族と病院を含めた地域連携	訪問看護師は、病院と地域の連携を図った
	訪問看護師は、患者の自宅での情報を家族と共有した
介護者の自信を高め、負担を軽減する看護	訪問看護師は、夫の持てる力と役割を明確にした
	訪問看護師は、夫が自信を持ち、介護負担が軽減するよう図った
訪問看護師と患者・家族の信頼関係の構築	夫は、患者について訪問看護師へ相談や連絡をした
	訪問看護師の介入は、患者や家族の安心とケアの受け入れに繋がった

考察①

〈1. 信頼関係を構築するために大切なこと〉

訪問看護師は単に患者と会話をするのではなく、**会話の中で語られた思いに耳を傾け、受け止める過程**を大切に**したコミュニケーション**を図っていた。

傾聴することは単に時間や技術だけではなく、**聴く姿勢をどのように考えているか、日常のケアのあり方に繋がる**(眞鍋,2016)

**訪問看護師が患者の思いと向き合う姿勢は、
患者・家族の安心感と信頼関係の構築に繋がる**

考察②

〈2. 信頼関係と意思の関係性〉

患者は生活のあらゆる場面で意思決定を行っていた
患者の意思は変化し続けていた

訪問看護師は、意思を把握するためにコミュニケーションを図った

患者はあらゆる場面で意思表出ができた

意思決定を支える医療者と対象者の基盤として、信頼関係を築くことが鍵である（小池、藤本、神田,2015）

**信頼関係が確実に構築されていたからこそ、
患者は安心して訪問看護師へ何度も意思の表出ができた**

結論

1. 抽出された6つのカテゴリーは【訪問看護師と患者・家族の信頼関係の構築】を基盤に成り立っていた。
2. コミュニケーションを大切にし、患者や家族と向き合うことが、安心感と信頼関係の構築に繋がると考えた。
3. 信頼関係の構築により、訪問看護師は変化し続けた患者の意思に着目し、患者らしい生活に繋げることができたと考えた。

